

輸出事業計画

申請者名：HIROSHIMA Mitsu Bay Oyster 協議会

品目：牡蠣

1. 輸出における現状と課題

●現状

- ・日本の牡蠣の生産は、むき身での活用を前提としており、天然種苗を使用した、いかだ養殖が主流。
- ・牡蠣の海外マーケットでは、レストランやオイスターバーでの殻付き牡蠣のニーズが高く、輸出大国であるフランスでは、かご養殖が行われ、稚貝の段階から一個ずつかごに入れて育てるため、均質な殻付き牡蠣を生産することが可能。
- ・株式会社HIROSHIMA Oystersが2023年に発足し広島からの牡蠣輸出に取り組んでおり、2024年に同社や関係者を構成員とするHIROSHIMA Mitsu Bay Oyster 協議会を設立し、さらなる販路拡大を目指している。

●課題

- ・殻付き牡蠣の品質が不均衡になりがちな従来の生産体系（いかだ養殖・天然種苗使用）からの転換
- ・流通コスト（海域近隣の空港施設が活用できていない）の削減
- ・冷凍商品ニーズへの対応、冷凍加工コストの削減
- ・EU・中東・アジア地域における販路拡大

2. 輸出事業計画の取組内容

これまで輸出に取り組めていなかった中東やEU を含む地域を対象に、海外の規制・ニーズに対応した生産から販売まで一気通貫したサプライチェーンを確立するため、協議会構成員が相互に連携し、次の取組を行う。

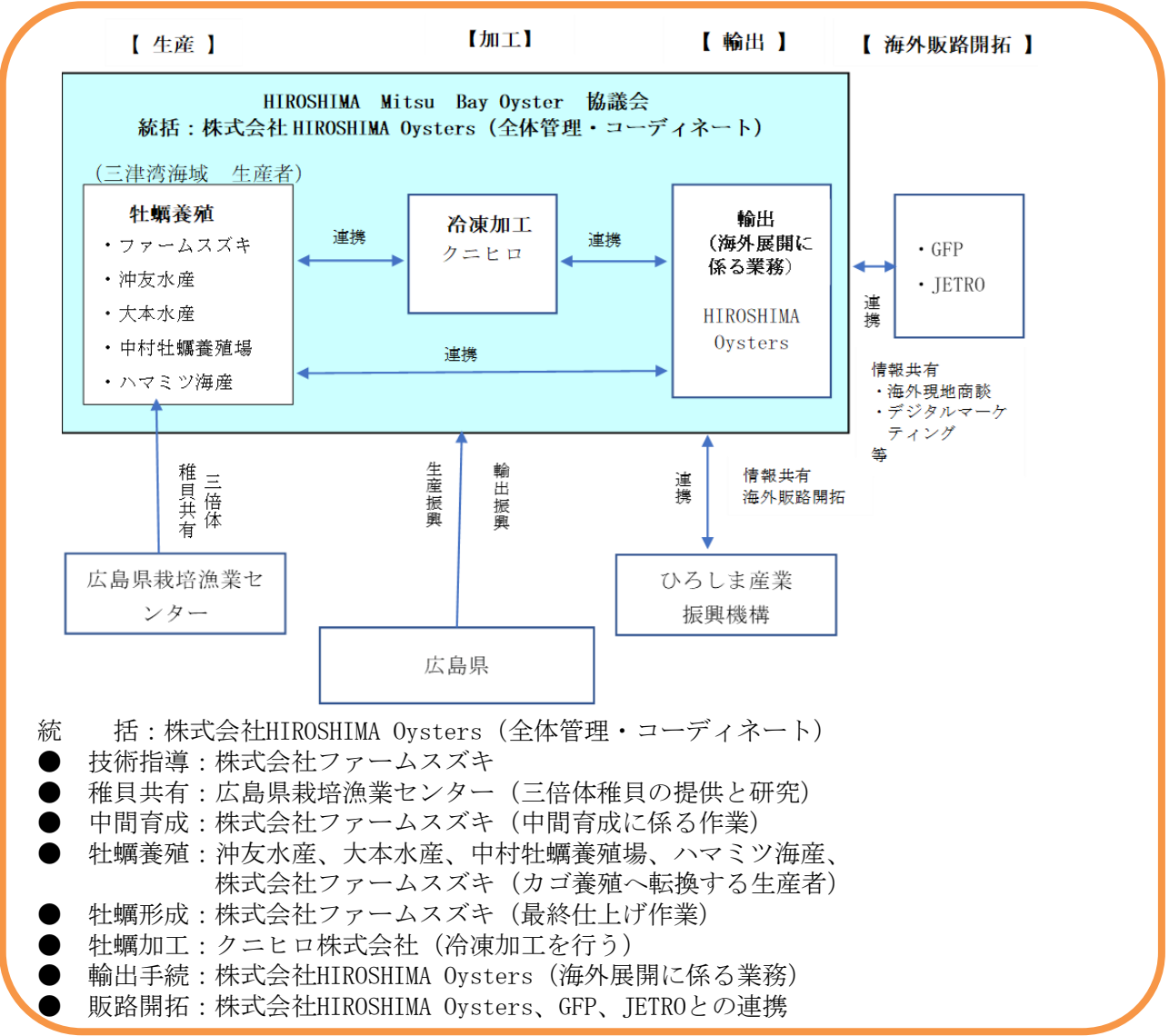
- ・フランスの養殖方法を参考とした新生産体系（かご養殖・三倍体一粒牡蠣の人口種苗の使用）の確立、大規模化
- ・冷蔵殻付き牡蠣について、広島空港施設活用による効率的な物流体制の確保
- ・冷凍殻付き牡蠣の加工事業者の一括した冷凍加工等による効率化・コスト削減
- ・デジタルマーケティングを活用した広告宣伝、展示会への参加

輸出事業計画

申請者名：HIROSHIMA Mitsu Bay Oyster 協議会

品目：牡蠣

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和5年度）	目標年（令和7年度）
輸出額(千円)	4,000	416,000
輸出量 (kg)	2,200	320,000
輸出先国	台湾、シンガポール、香港	EU(デンマーク)、UAE、サウジアラビア、オマーン、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム、台湾、シンガポール、香港